

デジタルで"道徳"

第2回 「こころツール」の活用



千葉県富津市立
富津小学校
礒部 光泰 先生

光文書院『デジタル教材 道徳（デジ徳）』（以下『デジ徳』）に搭載されている実践ツールの1つ、「こころツール」を使った授業実践事例を紹介します。

内容項目 公正、公平、社会正義

教材名 のこぎり山の大ぶつ（光文書院 2年）

「こころツール」とは…



自分や登場人物の思いや考えを円の割合で表すことのできる「心情円盤」のデジタル版です。1回の授業で2回使用することで、授業中での心情の変化をとらえやすいことが特徴です。また、指導者用の『デジ徳』を活用するとクラス全員分の円を一覧表示でき、議論する際に参照しやすくなります。低学年でも簡単に操作できます。

1 考えを可視化させるツール

『のこぎり山の大ぶつ』は、グループ活動で、速く歩きたい「ぼく」が、歩くのが苦手なあかりさんや助け合うグループの仲間の姿を見て、一人ひとりを大切にするこの価値に気がつくという教材です。「ぼく」の心情の変化を考えるために「こころツール」を活用しました。



◀「こころツール」を使用する子どもの様子

1回目は、グループが遅れ始めたときの「ぼく」の心情を考えるために活用しました。「『ぼく』は、自分を大切にしたい気持ちが強いかな？ グループを大切にしたい気持ちが強いかな？」と発問し、「ぼく」の気持ちの割合を、自分を青、グループをオレンジとして表しました。子どもたちは「同じようなことがあったな」「これくらいの割合だったかな」と自分のことのように考えて表していました。一覧表示にしてクラス全体で話し合うと、「ぼく」の言動や挿絵から、「自分を大切にしたい気持ちが強い」と考えた子どもが多かったです。

そして、あかりさんを気遣うグループの仲間の様子を見て、はっとする「ぼく」の様子について考えた後、2回目の活用を行いました。大仏が「なんだか笑ったように見えた」場面で、1回目と同様に、「『ぼく』は、自分を大切にしたい気持ちが強くなったかな？ グループを大切にしたい気持ちが強くなったかな？」と気持ちの割合について考えました。あかりさんののこにこする様子や、大仏の様

子から「グループを大切にしたい気持ちが強くなった」と考える子どもの数が増えました。

2 深い学びに導くためのツール

しかし、「こころツール」の一覧を確認してみると、「自分を大切にしたい気持ちが強くなった」と考えた子どももいました。

その理由を問うと、「あかりさんの笑顔が、『ぼく』はうれしかった。だから大仏が笑ったように見えたと思う」「あかりさんも、『ぼく』も喜んでいる」「仲間を大切にできる『ぼく』になったんだよ」などと答えました。周りの子どもたちからは「なるほど」「深い」と声もれました。一人ひとりを大切にするという教材の価値を深く考えることができた瞬間でした。



く考えることができた瞬間でした。

◀「こころツール」の一覧を大型モニターに映している様子

このような考えは、クラスの中では少数派でした。教材と板書だけでは、多数の考えに埋もれていたかもしれません。「こころツール」によって可視化されたことで、子どもたちの多様な考えを受け止める深い学びにつながったことを実感しました。

▼「ぼく」の心情の変化をまとめた板書

